

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年6月1日

57号

アルト・パラグアイ州知事一行、
レダ、エスペランサ村訪問！



一行の一員として訪問したABC新聞社 口一ヶ ゴンザレス 記者の記事の一部 5月22日付け

レダに備えられているようなエコツアーア用のインフラがあるようなどころはアルトパラグアイ州のどこにもない。リオパラグアイの沿岸にこのように小都市を立ち上げるのに八年の歳月と500万ドルの投資を必要とした。何百万ドルの投資とささまじい努力の投入にもかかわらず、このプロジェクトはまだ終わっていない。さらに今後四年は目標に向けて進められる考えだ。

現在レダには200名収容可能の

宿舎、講堂、スイミングプール、VIP用のゲストハウス、大食堂、さらに飛行場、またサテライトを用いた通信機を使用できる。

施設内には野菜や薬草、植樹用樹木の試験農場がある。財団の目指すところは農業試験を通じて大量栽培が可能な農作物を探し役に立つとしている。パラグアイ川での釣りは大きな魅力がある。一方狩猟は厳しく禁止されておりそのためたくさん種類の野生動物、とりわけ、ジャカレ（ワニ）カルピンチョ（カピバラ）多くの鳥類を観察することが出来る。理想の地？全くそのとおり。ユニークな場所だ。

八年の労働と500万ドルの投入の結果である。アウトパラグアイはわがパラグアイの他の地域と同様、特別なエコツーリズムの可能性を有している。しかし、その発展のためには必要な投資なくしては実現されはしない。レダは以前全くの荒地だった。偶然狩猟のため入り込むぐらいで誰も行かないようなところだった。今は100人ほどが働く場所となつた。この地はインディオや現地の人々が働く場所となつた。インディオ部族、エスペランサ、カトルセ デ マジョ、ディアーナなどのチャマココの人々がここで主に働いている。



レダで働くインディヒナの女性

ここを地図で確かめるにはまずバイヤネグラを見つけそこから南に六十キロメートルの地点を探さねばならない。この関連付けを除いては見つけることが出来ない。

レダは特別な場所である。リオパラグアイの両岸にマトグロッソパンタナールが広がる。自然の美しさを楽しませてくれる地球上で最大の湿地帯である。我々がここを楽しむことが出来るようにするためには、最低一日の釣りや散策を終えて心地よいベッドやおいしい食事、しつかりしたトイレを準備することを考えねばならない。レダのインフラ設備の課題は容易なものではない。極度の自然環境の困難さ、通信「コミュニケーションの困難、建設資材の絶対的不足などである。レンガはアスンシオンから、砂はコンセプシオンから、セメントはバジエミ、砂利石はビージャ・アーリズムを伸ばす場所が余るほどながら、旅行客を集めにふさわしい受け入れ環境がなければならない。アルトパラグアイ州はエコツーリズムの特別な可能性を有する地域である。

すでに五〇〇万ドルの投資がなされているがまだレダのインフラ設備は終わっておらずさらに最低今後四年の重労働が考えられている。インディヘナと現地人が肉体労働、ないしは、機器の操作を行い、人夫の人員は足りてない。近隣の村々の生活状況は大幅に変化している。近隣の村々の生活状況は大幅に変化した。いまだに貧しいのではあるが、以前のようにはしません。しかし魚を捕る方法を教えようとしています。」これは人々が自分の家族を誇りを持って支えてゆく労働の重要性につながる。エスペランサ・カトルセ・デ・マージョ・ディ・アーナのインディヘナの人々の生活を自覚しく変えた。無職では安定した生活をすることは出来ない。仕事のない村落には社会問題を増長させ救いがたい深刻な状況をもたらす。仕事のないことによつてもたらされる社会問題の数々は枚挙にいとまがない。

知事夫妻記念植樹をする(レダ)



ローケ・ゴンザレス 記者 五月十四日付

パラグアイには重要な魅力ある旅行資源が少なくないが、それらは活かされていない。エコツーリズムを伸ばす場所が余るほどながら、旅行客を集めにふさわしい受け入れ環境がなければならない。アルトパラグアイ州はエコツーリズムの特別な可能性を有する地域である。

すでに五〇〇万ドルの投資がなされているがまだレダのインフラ設備は終わっておらずさらに最低今後四年の重労働が考えられている。インディヘナと現地人が肉体労働、ないしは、機器の操作を行い、人夫の人員は足りてない。近隣の村々の生活状況は大幅に変化している。近隣の村々の生活状況は大幅に変化した。いまだに貧しいのではあるが、以前のようにはしません。しかし魚を捕る方法を教えようとしています。」これは人々が自分の家族を誇りを持って支えてゆく労働の重要性につながる。エスペランサ・カトルセ・デ・マージョ・ディ・アーナのインディヘナの人々の生活を自覚しく変えた。無職では安定した生活をすることは出来ない。仕事のない村落には社会問題を増長させ救いがたい深刻な状況をもたらす。仕事のないことによつてもたらされる社会問題の数々は枚挙にいとまがない。

レダを除いては旅行客を受け入れることの出来る何の施設もない。レダは地図上においてもほほ気がつかぬほどである。

南北米福地開発協会の佐野氏は次のように語る。「私たちは人々に魚を単に与えること



エスペランサ村の視察

日本からパンタナール、レダへのエコツアー

2008年4月25日-5月4日



セスナで出発



南米パンタナールツアーから帰り、早いものでもう一週間がたつた。今回のツアーハは、とにかく「行って大変良かつた！」と思った。楽しく、素晴らしい毎日が忘れられないでいる。出来事や友達を思い返すたびに、胸が熱くなる。または普通ではできない未知の体験をするということは、とても魅力的なことであると感じた環境問題、国際交流、観光とたつたの十日間の滞在だった事が信じられない程、多くの経験をし、多くの人に出会い、多くの事を学びました。

印象に残つたことを一つ一つ書いてみます。

パンタナールは地球上に現存する最も大きな野生生態系の一つとして、ユネスコの世界遺産・自然遺産リストに登録されている、パンタナールの南北を流れる主要河川パラグアイ河、北方のレダに行くまでの広大な湿原、飛行機の窓から望む平原にはあまりにもの広大さに驚くばかりです。レダの地に着き穩やかな空気は、あくせくした毎日をふと立ち止まってくれ、スローライフの素晴らしいを堪能させてくれました。

ここ植樹地は何もなかつたと言つて良いほどの湿原に道をつけて、とても蒸し暑くて足場が悪いだけでなくトゲなども落ちており、少し歩いただけで汗が滴り落ちました。この環境の中、一本一本の苗を植える作業の大変さを味わい、自然を再生することは難しく、とても地道な作業だと痛感しました。実際に五年前に植えた苗の成長を見る事ができ、自分が植えた苗の成長が楽しみだという思いがさらに強まつた。今回植えた苗を是非また見に行きたいと思う。

夜には ライトをすべて消して 満天の星、南十字星、星雲、流れ星 まさに 銀河鉄道の夜のようでした。童心に返つたように流れ星にお願い事をしました。乗馬を楽しみ、身近に見える、ワニ、ダチョウ、カピバラ、フクロウ、蛇 おおむ 見たことも無い様な多様な野生動物や鳥類が自然のままに棲息している姿を観察できました。（四ページに続く）



(二) から続く) エスペランサ村では現地の子供たちの純粹さ、目の輝き、元気さを、肌で感じることができたことです。どこへ行つても私たちを笑顔で迎えてくれて、取り囲んでくれた、本当にかわいくてやさしい子供たちでした。

バラグアイ河から眺める美しい朝日、夕日に自然と合掌してしま程になりました。初めてのフィッシングで、世界に名だたる大湿原での釣りができ、大きいピラニアを一匹釣りました。釣り竿を投げると入れ食いのように魚が食いついてくる、こんなに楽しいことは無いと感動して本腰を入れて釣り始めると、南の空が雨雲にて暗く写りました。その空を見て、「パイロットが直ぐに荷物をまとめてこのレダの地を立とう」慌てて釣りを止めて、後ろ髪をひかれる思いで、チャーター機に飛び乗りました。空路アスンションへ・・・・どうして どうしてと尋ねてみると、レダの滑走路は舗装されて居ない為雨が降ると、飛行機が飛べなくなると言うことでした。

私達がアスンションに到着した時レダの地は豪雨「あのまま釣りしていたら一、二日帰れなかつたでしょう。」ありがたい、ありがたい、と本当に神様の導きと守りを感じました。帰りの飛行機であらためて景色のすばらしさに感動した。日本ではビルやなんらかの建物、電線などで狭い空しか見られないが、一面森林であとは全部空というこれ以上ない開放感にひたつた。この時にレダの滑走路を舗装しよう。とこんなにも素晴らしい処に多くの人が訪れる様にと、声をかけて行こうと思いました。イグアスの滝 バードパーク サンパウロ市内観光をしました。そして今日飛行機に三十時間余り乗つて帰るのかと思うと、もう居たい気持ちと、少し帰りたい気持ちが入り混じつた。

いろんな人と写真を撮つて、握手して、泣いて、別れた、又絶対来ようと思つた。このツアーで多くの先生方にお世話になりました事心より感謝申し上げます。有難うございました。

(参加者 斎藤千賀子さん 感想)

五月五・六日セミナー、川崎市民プラザにて行われる



地球の緑を守る会高津理事長の樹の話し



参加者全員で記念写真

国際協力青年ボランティアへの支援金のお願い。
すでに支援金は集まつてきていますがまだ、
不足です。よろしくお願ひします。

支援金は左記の口座に

南北米福地開発協会 事務局
〒123-1001
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一十五

電話 ○四四一八一九一一八二一
FAX 岩崎ビル四F
会費納入 八二九一二八二〇

一〇一八〇一七七六八〇四七一
郵便口座

代表 柴沼邦彦
E-mail office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>

第8回 国際協力青年ボランティア隊員募集

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会が得られるよう国際協力青年ボランティアを下記のように企画致しました。

- 期間: 2008年8月20日(水)~9月5日(金)
- 参加資格: 18歳以上25歳まで
(健康に自信のある男女)
- 参加条件 ①小論文(400字以内)提出
テーマ: 「参加の動機及び将来の夢」
提出期限: 6月30日
提出先: 南北米福地開発協会
- ②小論文に各紹介者の推薦文を添付すること
- 合格発表: 7月5日
直接該当者に連絡致します。
- 選考人数: 8名
- 参加費用: 15万円
- 申し込み及び問い合わせ先
南北米福地開発協会
事務局 柴沼邦彦宛
- TEL: 044-829-2821
- FAX: 044-829-2820
- Email: office@asd-nsa.jp



現地の学生と共同で被服活動 (2007年8月)